

(款)45土木費 (項)10道路橋りょう費 (目)8交通安全施設費

◎交通安全施設整備の経費

交通安全対策事業

【 道路整備課・交通政策課 】

【総合計画上の位置づけ】

安全で快適な生活が送れるまち
地域安全:災害対策、交通事故や犯罪などの安全対策が進められているまち
道路整備:歩行者と車が共存できる交通環境のまち

【事業の目的】

対象 市民等

意図 交通環境の改善を図り、関係機関等との連携により、交通安全教育をはじめ各種交通安全対策を推進し交通事故による死傷者数の減少を図るため。

効果 交通事故及び死傷者の減少、交通バリアフリー化を図る。

【事業の内容】

(1) 交通安全対策事業

- ・あんしん歩行エリア(鎌倉・大船地区)内の舗装のカラー化等、事故削減対策を実施した。
- ・鎌倉市の交通安全を推進するため、市内交通関係機関及び団体相互の連絡を密にし、総合的・効果的な交通安全対策を推進し、交通事故防止を図るための各種事業を実施した。

【中事業に含まれる実施計画事業】

あんしん歩行エリアの整備(5-4-2-①)
移動円滑化基本構想に基づく道路特定事業(5-4-2-⑤)
田園踏切周辺の交通安全対策(5-4-2-⑦)

【事業費】

(単位:千円)

当初予算額	予算現額	支出済額	翌年度繰越額	不用額
51,517	51,297	45,549		5,748
主な支出内訳				
・交通安全対策事業				
交通安全教育指導員報酬 3人				4,776
自転車教室指導員謝礼				580
交通安全教育指導員費用弁償				254
スクールゾーン対策業務委託料				2,717
大船地区あんしん歩行エリア整備工事請負費(大船五丁目1番 先外)				5,426
薄層カラー舗装工 A=264㎡、アスファルト舗装工 A=414㎡				
鎌倉地区あんしん歩行エリア整備工事請負費(大町一丁目3番 先)				5,880
薄層カラー舗装工 A=572㎡				
移動円滑化特定経路整備工事請負費(上町屋750番地 先外)				3,465
アスファルト舗装工 A=112㎡、視覚障害者誘導用表示設置工 L=194m				
鶴舞田橋人道橋増設工事請負費(小袋谷一丁目2番 先)				7,077
歩道設置工 L=10.6m				
鎌倉市交通安全対策協議会等補助金				14,795
主な特定財源				
・国県支出金				14,153

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ※狭く限られた道路区域の中で、安全に通行可能な歩行空間の整備を行う手法として、カラー化や視覚障害者誘導ブロックの設置等を実施した。その際、関係者等の理解と協力を得るまでに時間を要するに至った。
	創意・工夫・課題等の改善点 20年度の成果	(課題・問題点についてどのような創意工夫、改善をしましたか。また、どのような成果がありましたか) ※関係者等の理解と協力を得て、安全な歩行空間を確保のための歩道等の整備を実施した。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ※国の補助事業であることから、材料の使用に関する制限等もあり、一般的な整備に留めざるを得なかった。
	今後の方針 (対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ※計画段階から地権者等へ十分に説明を実施し、理解と協力を得て、円滑に事業実施できるよう努める。 ※国及び県等に対して、補助事業における使用材料等の拡大を図るよう要望していく。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	B	改善の必要性 有
	歩行者の交通環境の整備改善を図る必要があることから、関連事業及び他事業とも密接に連携し、より効率的な整備を実施する。				
担当課長氏名:		道路整備課長 坂巻龍馬			

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 B:現状のまま継続	C:統合又は縮小 D:廃止又は休止	E:事業完了	B	改善の必要性 有
	現状のまま、継続して実施する。				
担当部名	都市整備部	部長名	高橋 洋		

平成21年度事務事業評価シート

事務事業 No./名称	■サービス部門 都整-18 交通安全対策事業 □支援部門								
事務事業 単 位	ザイムス コード及び 個別事業 名	1031 交通安全対策協議会補助金							
主管課	交通政策課			関連課					
分野名	安全で快適な生活が送れるまち								
目標 (目標値)	警察など関係機関・団体と連携して交通事故を防止する。 (交通安全計画の推進(交通事故による死傷者数を年間1000人以下にする。))								
人口等の データ	データ区分	20年度	19年度	18年度	備 考				
	人 口	176,484人	175,902人	175,051人	・各年4月1日				
	世 帯 数	77,430世帯	76,536世帯	75,611世帯					
運営資源 状 況	決算値	23,172千円	22,677千円	24,212千円					
	(国・県)								
	(負担金等)								
	(一般財源)	23,172千円	22,677千円	24,212千円					
	人員配置数	2.0人	2.2人	2.2人					
	人件費	19,003千円	20,261千円	20,319千円					
協働の パートナー	鎌倉・大船警察署 鎌倉・大船交通安全協会他	鎌倉・大船警察署 鎌倉・大船交通安全協会他	鎌倉・大船警察署 鎌倉・大船交通安全協会他						
事務事業 運営経費	総事業費	42,175千円	42,938千円	44,531千円					
	市民1人当 りの経費	239円	244円	254円					
	対象者1人 当りの経費								
20年度事務事業の変更点(新規・廃止・縮小した個別事業)/事業仕分けの視点による妥当性の評価									
個別事業名	変更額(千円)	事業の変更点・変更理由			妥当性※				
						※妥当性の評価 ① 必要性なし ② 民間 ③ 国・県 ④ 現行どおり(鎌倉市)			
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(27年度)		
市内交通事故発生件数	◎	目標値	950	900	900		900		
		実績値	941	926					
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(27年度)		
交通安全教室参加人数	◎	目標値	11,000	11,500	12,000		12000		
		実績値	12,772	12,824					
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(27年度)		
保育教育施設での交通 安全教室の開催	△	目標値	60	60	60		60		
		実績値	44	44					
指 標	評価	年度	19年度	20年度	21年度	22年度	最終年度(27年度)		
安全教室の開催数	◎	目標値	300	300	300		300		
		実績値	305	330					
評価 ◎:目標を達成 ○:目標に向かって前進している △:横ばい ×:後退している									
ベンチマーク(県内外自治体や民間団体との比較値)									
団体名	横浜市	川崎市	横須賀市	平塚市	鎌倉市	藤沢市	小田原市	茅ヶ崎市	逗子市
人口	3,667,418	1,404,932	421,056	260,381	173,953	406,768	198,361	233,508	58,590
死傷者数	19,427	5,946	2,626	2,022	1,095	2,915	1,479	1,178	231
率	0.53%	0.42%	0.62%	0.78%	0.63%	0.72%	0.75%	0.50%	0.39%
団体名	相模原市	三浦市	秦野市	厚木市	大和市	伊勢原市	海老名市	座間市	綾瀬市
人口	711,459	48,794	170,081	226,195	225,164	100,992	127,082	128,550	82,686
死傷者数	4,769	297	876	2,134	1,764	709	925	808	548
率	0.67%	0.61%	0.52%	0.94%	0.78%	0.70%	0.73%	0.63%	0.66%

平成21年度事務事業評価シート

創意・工夫・課題等改善状況	課題・問題点	(20年度事務事業を実施するうえでの課題・問題点は、どのようなことでしたか) ・本市の事故件数の中で、高齢者・自転車等の事故割合が高い。 ・児童・生徒の通学路での交通安全対策要望が増加している。
	創意・工夫・課題等の改善点	(上記課題・問題点についてどのような創意工夫、改善(対応)をしましたか) ・警察、自動車学校と連携したシルバードライビングスクールの開催や、教育現場と連携した自転車教室や自転車のマナーアップに重点をおいた交通安全教室を開催した。 ・スクールゾーン・通学路の交通安全対策要望が多いことから、鎌倉市スクールゾーン等交通安全対策協議会を発足し、対策に取り組むこととした。
	未解決の課題・問題点	(20年度事務事業の取組において対応(解決)できなかったものはどのようなことですか) ・交通安全キャンペーン等の取り組みについては、キャンペーン参加者が高齢化・固定化されている状況から、さらに広く、多くの参加者を募る取り組みが必要である。 ・安全安心運動との連携、統合を含めた対応が必要である。
	今後の方針(対応・改善)	(上記対応できなかった課題・問題点について今後どのように対応(改善)していきますか) ・交通事故発生件数は、遞減傾向にあるものの、交通安全教室・キャンペーン等の普及啓発活動は、より一層の充実を図って行かなくてはならない。鎌倉市交通安全対策協議会は、その中心的な役割を担ってきた組織であるが、設置後約40年を経過している中で、組織の構成や、安全安心活動との連携を含めて取り組む必要がある。

一次評価(課長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	・交通事故発生件数は、遞減傾向にはあるが、交通安全対策事業は、継続して取り組む必要がある。特に、交通安全普及啓発活動の内容は更なる充実を図る。実施方法等については、時代や市民ニーズを捉え対応する。そのため、これまで、市内の交通安全活動の中心となっていた鎌倉市交通安全対策協議会のあり方や行政の関わり方について検討する。		
担当課長氏名:	交通政策課長 高橋 一也		

二次評価(部長評価)

今後の方向性	A:充実又は拡大 C:統合又は縮小 E:事業完了 B:現状のまま継続 D:廃止又は休止	B	改善の必要性 有
	・交通安全対策事業は、市民ニーズの的確な把握を行い、引き続き効率的に事業推進する。また、鎌倉市交通安全対策協議会のあり方や行政の関わり方について見直しを行う。 ・市民の要望の高いスクールゾーン・通学路の交通安全対策の充実を図る。		
担当部名	都市整備部	部長名	高橋 洋